

2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 25 日

所属	会計ファイナンス 研究科	職名	教授	氏 名	石黒秀明
研究課題	最新税務訴訟事件判決の分析と判例理論の研究				
研究キーワード	租税法、判例研究、判例 理論、統計学	当年度計画に対す る達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの 成果が達成できた		
関連する SDGs項目	10. 人や国の不平等をな くそう	16. 平和と公正をすべて の人に	該当なし		該当なし

1. 研究成果の概要

租税訴訟事件において、統計学の知見を援用して課税要件事実の評価を行うべき事件（「高松外れ馬券訴訟事件」および「残波事件」）を引き続き研究対象とし、裁判所の判断について実証的・批判的な検証を行うため、データの収集と分析を行った。外れ馬券訴訟に係る独自のノウハウの分析については競馬ソフトウェアのデータベースを活用し、残波事件に関係する過大な役員給与の分析については大手会計ベンダーの保有する法人集積データの活用を図った。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

【著書・論文（査読なし）】

ジェンダーと税制－所得税の「寡婦控除」を考える－、石黒秀明、単著、HP、2021 年 7 月

租税正義について、石黒秀明、単著、HP、2021 年 9 月

BEPS と開発途上国支援、石黒秀明、単著、HP、2021 年 9 月

【学会発表等】

統計学の手法と租税、筑波税法研究会、2021 年 11 月、ZOOM 開催

3. 主な経費

課税庁の否認レベルの分析を目的として、馬券回収率および中小企業の役員報酬水準の統計分析のため、統計ソフトウェア（SPSS）（一部バージョンアップ含む）を購入した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

（本文は2ページ以内にまとめること）